

### 3) 各施設における early intervention (1) 日赤における極小未熟児の早期介入

今泉 岳雄 川上 義 前川 喜平  
中江 陽一郎 秦野 悦子

#### <5>日赤医療センターにおける取り組みの紹介

##### \*グループ(きらきら星の会)参加者決定までのプロセス

未熟児フォローアップ外来来所者の中から2歳前後の児を選び、小児科医、臨床心理士が関わり、神経学的なチェック、津守式発達質問紙、K式発達検査、TK式幼児用親子関係検査を施行し、検査結果と児への対応の仕方を親にフィードバックするとともに、会の主旨を説明し9人の参加希望者を得る。1名は顕著な発達の遅れが認められたが、今まで両親とも商売に追われ治療機関にも通っておらず、家でも関わりが希薄であったので、入会を勧めたところ両親も積極的に希望。他に未熟児ではないが、育児不安が強く児と上手に関われない母親にも会を紹介。両者とも休まず意欲的に参加。

##### \*開始時期と開催の頻度

平成5年9月より月1回(午後2時より2時間程度)

##### \*スタッフ

遊びのリーダー、医師、保健婦、臨床心理士、保母、看護婦、学生、大学教員など10名

##### \*プログラム

まず親子で楽しく参加できる場になることを第一目標にする。別紙のプログラムのよう、自由遊びの時間をたっぷり、児が場に慣れ課題遊びに入りやすくすると同時に、前回遊んだ材料を置いておき、その遊びが広がるように留意している。一つの素材でワンステップごとに子どもが十分楽しみながら遊べ、次のステップへ自然に移行し発展するよう導入。小麦粉粘土の例だと、粉を触る、食紅を入れ色の変化を楽しむ、ぬるま湯を入れこねる、固まったら丸める・伸ばす・穴をあける、その後、粘土を転がして投げて他者とのやりとりをするなどのように移行、発展させる。参加者には、次回に行くことを伝え、必要な準備をしてもらう。

##### \*記録用紙

会の終了後、スタッフのミーティングを持ち、各担当者に親と子の行動記録を別紙の視点から記入してもらう。会に参加した群とそうでない群に、1年後、2年後に発達検査や親子関係検査を再施行し両群を比較するつもりであるが、両群の条件を統一することが困難なことや援助頻度が少ないことから、親の自己評価やスタッフの行動記録も参考にしたいと考えている。

##### \*5回実施した感想

- (1) 今年の2月は風邪などの理由で7割の出席率であったが、昨年度は9割の出席率で、会への需要が高いのを感じた。
- (2) 10組の親子のうち、3組が父親も参加し、徐々に子どもと一緒に動くようになり、父親同士の会話も増し、父親の育児参加にも刺激を与えていると思われる。
- (3) 親子で体を動かした後に、おやつの時間をもうけることで、子どもも静かに食べ、なごやかに親同士の話合いの時間が持てている。
- (4) 会で行った遊びや歌を、家で親子でする報告も多い。
- (5) 親の心配は参加初期は言葉の遅いことが主であったが、2月の時点では伸びている児が多く、自己主張やトイレトレーニングなどの話題も多くなってきた。
- (6) 午後に会が開かれるので、昼寝の時間と重なる児も見られ、時間帯の考慮も必要と思われた。
- (7) 他のグループでは、未熟児ということで他児との交流を避け、グループに参加することが社会化の一步となっている親子の報告も聞かれた。
- (8) 医療スタッフの援助を一番切実に欲したのは、退院直後から最初の1年間という声も多く、より早期からの援助の必要性を感じた。

日赤医療センター きらきら星の会参加児童の特性

No	氏名	性	診察年齢	出生体重	在胎週数	k式発達	津守式	その他
1	H. Y.	女	1:11	1000	29	108	95	
2	M. K.	女	2:00	769	25	96	105	
3	Y. M.	女	2:04	782	26	84	81	
4	H. A.	女	2:04	1068	27	94	130	
5	Y. T.	男	2:03	1199	28	95	98	
6	K. A.	男	2:00	1334	34	97	85	
7	S. K.	男	2:00	830	26	59	69	D. D.
8	K. M.	男	2:02	1484	35	97	112	
9	A. H.	男	2:03	1360	28	89	85	
10	K. R.	女	1:08	2872	39			母親の育児不安

(1993年9月現在)

(D.D.は修正月齢にて算出)

# 第4回 さらきら星の会 プログラム 小麦粉ねんど遊び

時間	遊びの内容(活動)	指導上の配慮	準備
14:00	受付 自由遊び お絵かきコーナー ままごとセット 豆 トンネル 新聞紙 ...片付け...	前回の段ボール遊びで体験したクレヨンでのお絵かきを自由遊びの中に設定する。 一尻きりでなく、経験を重ねるチャンスを提供する。	名札・シール クレヨン 模造紙 ままごとセット 牛乳パックの カップ ポット トンネル 新聞紙・箱
14:20	手遊び ①一かき、 ②ぞうさんのお鼻 ③カレーライス など	みんなに見える位置に立つ。 歌詞、動作、テンポなどが、子どもの年令や発達に合っためそび方を工夫する。	
14:30	身体を動かして遊ぶ ①抱かれて歩く ②おんぶされて歩く ③一本橋 こちょこちょ ④ラララ・ぞうさん ⑤ドッチャンカンタッチン	くすぐり遊びに、体の一部から全体への刺激の変化を楽しむ。「ラララぞうさん」を加える。 指先でつかれたり、足首を持たれたらイナミックに揺すられたり、両手で絞られたりきながら、期待感を持って共感が高まるように展開する。	

1993(平成5)年  
2月(日曜日) ねらい：小麦粉ねんどを作る過程を楽しく体験する。  
小麦粉ねんどを使って、ひっぱる、踏む、丸める、みたくてたりして遊ぶ。サラサラ、ベタベタ、フニャフニャした感触や、指先・手先を使う経験をさせる。形を作り、身近なものにみたりしながら、他の人とのやりとりの力を育てる。

14:40	シーツアラブロン パラバルーン 小麦粉ねんどで遊ぶ ①粉をさわる ②食塩を入れる ③食紅を入れる ④ぬるま湯をいれる ⑤ねる・こねるを充分する ⑥固まってきたらシートの上でこねる ⑦ひっぱったり、のびたり、ふんだり、丸めたりして遊ぶ 形を作って遊ぶ ⑧他の色のねんどと交換して遊ぶ ...片付け... (シートを拭く) ...手洗い... おやつ 話し合い 絵本 「いただきます」 出席ノートをもらう さようなら	大きめのシートをひき、その上で作業することを伝える。 親子で向き合っって盛り、小麦粉をボールに入れて、サラサラした粉をさわって感触を楽しむ。 小麦粉に食紅を加え、湯を入れることで色が変化していく様子に興味を持たせる。 粉に湯を入れ、ベタベタした感触を体験させる。 固まって来たならシートの上でしっかりこね、指でつついたり、丸めたりして楽しんでから、他の色のねんどと交換する。 いろいろな色のねんどで、形を作って遊ぶ。 鬼立てたり、人とのやりとりをして遊ぶ。 母親に小麦粉ねんどの家庭での使い方を伝える。 出来上がったねんどは、色別に丸め、ビニール袋に入れる。	シーツ パラバルーン シート 小麦粉 片栗粉 食塩 食紅(赤黄緑) ぬるま湯 洗面器 ビニール袋 わりばし ぞうさん おやつ 絵本
15:30			
16:00			

遊	場への適切な 玩具や周囲への関心	
	親子遊び 参加度	
び	言葉遊び 参加度	
	設定遊び 参加度	
対	自由遊び 遊んだ方 遊遊持 遊性 その他	
	母親との関係 親子分離 母愛着 要求 相互交渉 その他	
人	スタッフとの関係	
	子どもとの関係	
関	機嫌	
	言葉 表出 理解 ストレス時の表現	

子どもの自由遊びの様子	
自由遊びの様子	
言葉遊びの様子	
設定遊びの様子	
自由遊びの様子	子どもが遊びに積極的に参加しなさい
親子遊びの様子	母親がそばに遊んでくれた
母親との関係	母親がそばに遊んでくれた
親子分離	遊びをしながら遊べる様子
相互交渉	その他の
スタッフとの関係	全体の子どもへの関心の印象
子どもとの関係	支配、通干渉、通関係、関係、服従、放任、拒否、威嚇 攻撃、自主的、その他 ( )
機嫌	園内での遊べる様子、参加の様子、発言内容
言葉表出	
理解	
ストレス時の表現	

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります 

- 3)各施設における early intervention  
(1)日赤における極小未熟児の早期介入